

Oh-Pa 1/3 導入事例 【インターネット利用動向調査の大手 ネットレイティングス】

専門家でもなくても自在に使えるオンメモリーDBの導入で 大幅な業務効率化を実現

ネットレイティングスは、世界的な情報・メディア企業であるニールセン・カンパニー傘下のインターネット利用動向調査のリーディングカンパニーだ。このたび、同社は富士通ビー・エス・シーが開発・販売するオンメモリーデータベース「Oh-Pa 1/3 (オーパ・ワンサード)」を導入し、大幅な業務効率化に成功した。速さもさることながら、使い勝手が魅力だったという。導入の経緯を両社の担当者に聞いた。

**アナリストが直接操作することで
カスタマイズ対応の効率向上を目指す**

—— ネットレイティングスの事業についてご説明ください。

鈴木 当社は、ニールセン・カンパニー傘下の合弁企業として1999年に設立されました。主に、インターネット視聴率調査とWebサイトのアクセス解析サービスを提供しています。インターネット視聴率調査とは、テレビの視聴率調査のインターネット版であり、マクロの視点からの調査です。Webサイトのアクセス解析という、ミクロの視点からの調査を手がける会社は数多くありますが、マクロとミクロの両方の視点の調査を組み合わせ提供できることが当社の強みです。他社を含めた市場全体を知ることで、自社のポ



ネットレイティングス株式会社
シニアアナリスト
鈴木 成典氏

ジションをより正確にとらえることができます。

通常は、収集したアクセスデータを定型的な指標で集計して、ASPサービスとして提供していますが、独自の視点からもっと深掘したいというご要望に対しては、カスタマイズサービスを提供しています。

—— Oh-Pa 1/3といえば、主に流通業や通信業における大規模なバッチ処理への適用で実績が多い製品です。Webのアクセスデータも膨大な量になるのでしょうか。今回の適用は、やはりバッチ処理の性能改善ということでしょうか？

鈴木 いいえ、違います。もちろん、当社システムにも大規模なバッチ処理は存在します。Oh-Pa 1/3を適用すれば処理性能の向上は図れるのですが、現状でも十分なパフォーマンスは出ています。今回は、カスタマイズサービスの品質向上と業務改善を目的

にOh-Pa 1/3を採用しました。

—— カスタマイズサービスにはどのような課題があったのでしょうか。

鈴木 これまでは、アナリストがお客様のご要望を聞いて仕様をまとめ、それに沿ってエンジニアがデータ処理を行っていました。大量のデータを扱いますので、当然処理には多くの時間を要しますが、そのほかにも仕様の伝達やドキュメント作成など、アナリストとエンジニア間のコミュニケーションにかかる時間も無視できません。1回のやりとりで最低1～2日かかります。しかも、必ずといっていいほど試行錯誤が伴いますので、目的のデータを得るためにいろいろな集計結果を試すとすると、もっと多くの日数を要します。もしアナリストが自分でデータを操作できれば、大幅に時間を短縮でき、かつ、サービスの品質向上も図れるのではないかと考えていました。

そこで、3、4年前から“大規模デー

タを短時間で簡単に処理できるツール”を探していましたが、なかなか当社に合った製品に出会えませんでした。

**1カ月という短期間で導入を決定
導入後は大きな効果を発揮**

—— Oh-Pa 1/3を選定した経緯についてお教えてください。

鈴木 Oh-Pa 1/3との出会いは昨年5月の展示会でした。当社のマネージャーがOh-Pa 1/3を見て「これならいける！」と感じたそうです。すぐにサンプルデータを渡してプロトタイプを作ってもらい、私も一緒にデモを見させてもらいました。一目見て、すごく処理が速いだけでなく、操作もしやすいことが分かりました。

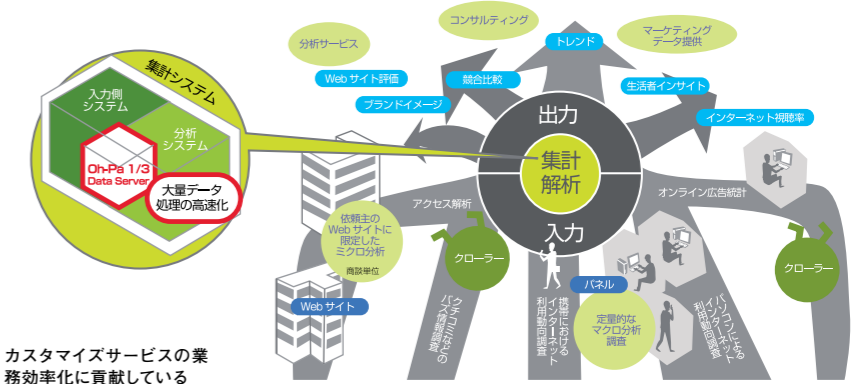
白桃 Oh-Pa 1/3はオンメモリーでデータを高速処理できるのが最大のポイントですが、意外と知られていないのが製品に付属する専用のGUIの存在です。表計算ソフトを操る要領でデータの加工や編集を行うと、その操作ログがそのままバッチプログラムになるというものです。主にエンジニアの方を対象とした、高生産性を実現する開発・デバッグツールとしての位置付けです。これをアナリストの方が直接利用するという形態は初めてであり、我々にとっても新鮮な使い方でした。

鈴木 当社のアナリストのITリテラシーは比較的高いですから、その方がフィットしたのかもしれません。操作もすぐに覚えられましたし、GUIもすんなりと受け入れられました。

—— 導入はスムーズに進んだのでしょうか。

鈴木 極めてスムーズでしたね。導入の決定自体は、デモを見てから1カ月もかかっていません。当社の求める性

■ネットレイティングスの業務における Oh-Pa 1/3の位置付け



カスタマイズサービスの業務効率化に貢献している

能と操作性を実現できるのはOh-Pa 1/3しかないという確信がありました。データを流し込む作業や検証に多少の時間は要しましたが、業務的には何も支障はなかったですね。

—— 実際の導入効果はいかがでしたか。

鈴木 Oh-Pa 1/3の導入で、アナリスト自身が思うがままにデータを操作し、即座に結果を確認して、違っていたら条件を変えてみるといったことが行えるようになりました。アナリストとエンジニアのやりとりで1日か2日かかっていたのが1時間程度で終わるようになり、しかもアナリストが自らデータを抽出することで、集計の質も上がりました。これは、サービスの品質向上と言い換えることができると思います。

また、エンジニアは、これまでアナリストの要望対応に要していた時間を、エンジニア本来の業務に費やすことができるようになり、当社全体での業務の改善を推進することができたと思っています。

**データの爆発的増大を受けて
今後はOh-Pa 1/3の出番が増える**

—— 今後はどのような展開をお考えでしょうか。

白桃 今回のご利用形態により、新たな市場開拓のヒントをいただきました。例えば、システムの統廃合におけるデータ移行やそれに伴うデータ調査など、非定型なデータ操作が必要とされる場面です。より多くの局面でOh-Pa 1/3をご利用いただけるよう、さらなる機能強化を進めていきたいです。

鈴木 ほかの統計解析ツールとの連動を図るなどして、今以上に様々な解析ができるようになると、適用範囲ももっと広がるのではないのでしょうか。

また、ICT社会の到来により、スマートフォンなどの新たなデバイスの普及とともに、当社に限らず、今まで以上に大量のデータ解析が課題になってくるでしょう。今後は、Oh-Pa 1/3のような機動力の高い製品の出番がますます増えてくるはずですよ。



株式会社富士通ビー・エス・シー
パッケージ&サービス本部
Oh-Pa開発事業部 事業部長
白桃 昌樹氏